

■主題名 「内なる規範意識に従って生きる」

■内容項目（改訂後） C 遵法精神、公德心 （関連項目 A 自主、自律、自由と責任）

■教材名・出典 「仏の銀蔵」（出典：文部科学省 中学校道徳読み物資料）

■ねらい

村人や銀蔵の姿から、自他の権利を大切にし、義務を果たして、自分の内なる規範意識に従って生きようとする道徳的実践意欲と態度を養う。

■展 開

	学習活動	授業者の発問や指導内容と予想される生徒の反応	☆指導上の留意点
導 入	1 「高利貸し」について理解する。	○ 「高利貸し」という職業を知っていますか。 ・ 知らない ・ 何かを貸す人？お金を貸す人？ ・ 高い利子でお金を貸す人	・ 教材「仏の銀蔵」を提示し、銀蔵の職業である「高利貸し」について理解させる。
展 開	2 教材「仏の銀蔵」を読み、問題を見出す。 3 教材「仏の銀蔵」を通して、「内なる規範意識」について考える。	○ この話のどんなところが問題だと思いますか。また、気になったところはどこですか。 ・ 銀蔵が人々に厳しい取り立てをしていたところ（鬼の銀蔵） ・ カラスに証文綴りを奪われてしまい、人々が借金を返さなくなったところ。 ・ 証文綴りが無いのに人々が借金を返し始めたところ。 ○ 今まで借金を返さなかった人々が借金を返し始めたのはなぜでしょうか。 ・ 銀蔵の困っている様子を見て。 ・ 盗人にはなりたくない。 ・ 借りたものを返すのは筋、「良心」がささやいた。 ・ 正しく生きたい（人として道を外れたくない）。 ・ お天道様が見ているから。 【中心的な発問】 ◎ 「そうか、お天道様か。」と膝を打った銀蔵は、どんなことに気づいたのでしょうか。 ・ 人々の気持ちなど気にせず、ひどいことをしてしまった。悪いことをしたら、罰が当たる（厳しすぎる取立てに対する反省） ・ 今までの自分は人として間違っていた（人としての反省） ・ お天道様はすべてわかっている。恥じない生き方をしよう。（善し悪しの判断、よりよい生き方の自覚） ・ 人の道を外れてはいけない、誰が見ていなくても正しく生きよう（内なる規範意識の自覚） T：お天道様とは何でしょうか。 ・ 自分を正してくれる心。 ・ 正しく生きようと判断させてくれる自分の心の声。 【主題に迫る発問】 ○ 私たちは、法やきまりを守ってさえいれば、よりよい社会（生活）を実現できるでしょうか。これについて、どう思いますか。 ・ 自分のことばかり主張するのではなく、相手のことを考え正しい判断をする心が大切だと思う。 ・ 法やきまりがなくても正しい心に従って生きていくことが大切だと思う。 ・ 守らなくても罰せられないものもあるが、人として正しいと思った自分の心にしがって生きていくことが大切だと思う。	・ 範読中に、効果音を流し、情景を思い浮かべながら読み進める。 ・ ペア活動で、問題視した場面を自由に交流させ、それを全体で取り上げる。 ・ 生徒の発言をもとに、イラストや登場人物の発言や立場を提示し、手際よくあらすじを整理する。 ・ ペア活動で自由に意見を交流させ、それを取り上げながら切り返しの発問を行う。 ・ 借金返済は、人々が本来もつ良心（内なる規範意識）に基づくものだということをおさえる。 ・ ワークシートを配布し個人の記入後、4人程度の小グループで自分の考えとその理由を発表する。 ・ 銀蔵に「良心（内なる規範意識）」に従って生きようとする自覚が芽生えてきたことをおさえる。 ・ 「お天道様」について問い返し、内なる規範意識について自覚させ、ねらいに迫る。 ・ 数名を指名し、発表させる。 ・ 銀蔵の変化から、内なる規範意識に従って行動することが規律あるよりよい社会の実現につながることに気付かせた後、生徒の発言から「私たちはどう思うか。」と、人間としての生き方について深く考えさせる。
終 末	4 本時の学習で感じたことや考えたことをまとめる。		・ ワークシートで振り返りを行う。

■評 価

- ① 自他の権利を大切にし、義務を果たして、内なる規範意識に従って生きることについて、多面的・多角的に考えることができたか。
- ② 自他の権利を大切にし、義務を果たして、内なる規範意識に従って生きることについて、自分自身の問題として考え、自分なりの課題意識をもつことができたか。

■主題設定の理由

人間は社会的存在と言われるように、他者とかかわり合いながら社会を形成し、社会集団の中で生きている。集団の中で、人間はときに私利私欲に動かされ、利己的になりがちである。そこで生み出されたのが、法やきまりであり、それらは社会集団に秩序を与え、摩擦を最小限にするために存在する。社会集団の中で人間が互いによりよく生きていくためには、法やきまりを進んで守るとともに、そのよりよい在り方を常に追究し、規律ある安定した社会を築くことが大切である。

法やきまりを進んで守ろうとする精神は、公德心によって支えられている。公德心とは、社会生活で守るべき正しい道としての公德を大切にすることである。公德心は、人間の内なる規範意識によって実現され、この公德心が一人一人の生活の中で具体的に生かされることで、規律ある安定した社会が実現できる。

中学生の段階では、「ルールだから守る」と法やきまりを他律的に捉えている生徒が多い。そこで、法やきまりの他律的な捉え方を超えて、「尊重したいから進んで守る」という自律的な捉え方ができるようにするために、遵法精神には「自分を裏切らない」という自尊心と、目の前の相手の心情に思いを巡らせ、外見からはうかがい知れない人の心情を想像できる思いやりの心が関わっていることに気付かせることが重要となる。

したがって、社会集団の中で、一人一人が「私」を大切にすることと、他者や社会全体の「公」を大切にすることとをもち、社会の一員として自他の権利を大切に、義務を果たして、内なる規範意識に従って生きようとする道徳的実践意欲と態度を養おうと考え、本主題を設定した。

■指導の工夫

【主題に迫る発問の工夫】

中心的な発問で、銀蔵の気付きからねらいとする価値の大切さに気付かせた後、教材とねらいで構成した本時の主題「内なる規範意識に従って生きる」に関わる人間としてのよりよい生き方を深く考えさせる。そのために、銀蔵の気付きから内なる規範意識に従って生きることが規律あるよりよい社会の実現につながることに気付いた生徒の発言から「私たちは法やきまりを守ってさえいれば、よりよい社会の実現ができるのだろうか。どう思うか。」と問うこととした。

【教材提示の工夫】

教材範読中には、教材文中で印象的な場面で効果音を流し、生徒が情景を思い浮かべながら読み進める。さらに、範読後には、ホワイトボードに教材のあらすじが順を追って理解できるよう場面絵を貼付したものを用意し、生徒の教材理解を助ける。

【学習活動の工夫】

自分の考えを伝え、相手の意見を聞く雰囲気をつくるために、まずはペアで自由に意見を交流させる。その後、小集団での話し合い活動を取り入れ、自分の考えを明確にし、他者の意見に対しても自分の考えを述べたり、質問したりし、自分の考えを深められるようにする。

■板書計画

◎「そうか、お天道様か。」
銀蔵が気づいたこと

- 人々にひどいことをしてしまった。
- 悪いことをしたら、罰が当たる。
- 今までの自分は、人として間違っていた
- お天道様はすべてわかっていて、

善し悪しの判断

誰が見ていなくても、人として正しく生きることが大切

規範意識
よりよい社会の実現



○人々が借金を返し始めたのはなぜか？



人々

生徒の意見